

日本動物看護学会 第9回大会

2000年6月11日(日)

慶応義塾大学・三田キャンパス 大学院棟

日本動物看護学会 第9回大会

【会 期】 2000年6月11日（日）

【会 場】 慶応義塾大学・三田キャンパス 大学院棟

【参 加 費】 会員：3,000円 非会員：5,000円 学生：1,000円
年会費：3,000/当日入会できます。（入会金は不要です）

【懇 親 会】 ワインパーティを大会終了後に開催します（無料です）。
幅広い職域で活躍している看護師の方々や、研究をなさっている方々と、気軽にお話しできる絶好のチャンスです。
会員・非会員ともに積極的にご参加ください。

【学会連絡先】 学会事務局 日本動物看護学会事務局
（〒101-0064）東京都千代田区猿楽町2-6-3
tel.03-5282-2275
fax.03-5282-2276

【会場連絡先】 慶応義塾大学 大学院棟（当日）
tel.03-3453-4511（代）

第9回大会日程

1. 受付開始 9:30～
2. 大会開催 10:00 総合司会 木藤明廣（事務局長）
3. 会長挨拶 10:00～10:10 会長 今道友則
4. 一般演題 10:10～12:00 （質疑応答を含む）

①看護学生の盲導犬の病院内受け入れに関する意識調査

甲田菜穂子（大阪大学・日本学術振興会）

座長 桜井富士朗（桜井動物病院）

②人間と動物の絆 動物は人間にどのような影響を与えるのか

田崎奈津子（上智大学）

座長 廣田順子（アリスどうぶつクリニック）

③保育現場での動物飼育実態調査

杉本倫代（慶応義塾大学）

座長 秋葉亮子（あいち動物病院）

④補完代替医療における動物看護師の役割

関口 桂（動物病院NORIKO）

座長 小松千江（新ゆりがおか動物病院）

⑤重度脳障害を持つイヌの介護例

児玉由美子・山本亜希・小中裕子・岡本五月樹・山本穂積（北川動物病院）

座長 栗野 悟（動物病院モルム）

⑥フェレットの嗜好性試験結果

中俣由紀子（かしま動物病院）

座長 田中吉春（㈱アイビーテック）

5. 技術教育講演

「コンピューターソフト・エクセルを用いたイヌの栄養指導ソフトの作成」

武藤政美先生 明和学園短期大学

座長 桜井富士朗（桜井動物病院）

6. 日本動物看護学会 第6回総会 12:00～13:00

【昼食休憩】 13:00～14:00

7. 特別講演

「作家から見た動物看護師の仕事」

講師・井上こみちさん（作家、本会会員）

司会 木藤明廣（事務局長）

8. シンポジウム

「ペット・ロスに動物看護師はどんな態度をとりますか？」

基調講演・長田久雄先生（東京都立保健科学大学教授）

パネラー／大城朋子（本会理事）、小松千江（本会理事）

司会 木藤明廣（事務局長）

9. 懇親会（ワインパーティ） 16:30～18:00

一般演題

①看護学生の盲導犬の病院内受け入れに関する意識調査

甲田菜穂子（大阪大学・日本学術振興会）

②人間と動物の絆 動物は人間にどのような影響を与えるのか

田崎奈津子（上智大学）

③保育現場での動物飼育実態調査

杉本倫代（慶応義塾大学）

④補完代替医療における動物看護師の役割

関口 桂（動物病院NORIKO）

⑤重度脳障害を持つイヌの介護例

児玉由美子・山本亜希・小中裕子・岡本五月樹・山本穂積
（北川動物病院）

⑥フェレットの嗜好性試験結果

中俣由紀子（かしま動物病院）

看護学生の盲導犬の病院内受け入れに関する意識調査

大阪大学・日本学術振興会

甲田 菜穂子

<導入>

盲導犬は、視覚障害者にとって有益であることが認められ、使用者が盲導犬を同伴して店や公共機関を利用できるようになっている。しかし現実には、盲導犬の受け入れ拒否は多くある。医療現場では、使用の約2割が盲導犬の立ち入りを拒否された経験を持っている。盲導犬の受け入れ拒否があると、使用者は通常のサービスを受けられないという社会的不利益を被るだけでなく、強い不快感を持ち続けることになる。

盲導犬の受け入れ拒否の問題を考えると、受け入れ側になる人が、盲導犬やその使用者、彼らの受け入れに対してどのような態度や知識を持っているのかを明らかにする必要がある。本研究は、将来、医療現場で看護者として盲導犬と接する可能性が高い看護学生が盲導犬やその使用者、彼らの受け入れに対してどのような態度や知識を持っているのか、予備調査として質問紙調査を実施した。

<方法>

質問紙は、盲導犬とその使用者への対応の仕方や盲導犬へのイメージなどを尋ねるものと、ペットに対する態度を測定する Pet Attitude Scale であった。調査対象は、専門学校の看護学科1年次に所属する学生39名であった。調査は入学1カ月後に実施した。

<結果>

勤務中に盲導犬使用者が来院したらどうするかという質問に、全ての学生がその人を案内すると回答した。しかし、盲導犬に対しては「使用者と一緒にさせる」や「使用者の判断に任せる」というように全面的に盲導犬を病院内に受け入れると回答した学生は全体の64%に減少した。そこで、全面的に盲導犬を病院内に受け入れると回答した学生25名を全面的受入群、盲導犬を病院内に入れないと回答した1名を含め、部分的に盲導犬の入室を拒否すると回答した14名を条件付受入群とした。この2群の間にペットへの態度得点に違いは認められなかった。盲導犬のイメージにも全面的受入群と条件付受入群で大差はなかった。総じて、「おりこう」、「かわいい」といった肯定的イメージが目立った。

盲導犬やその使用者にどのような対応をしようか尋ねると、「盲導犬に触る」、「盲導犬に餌をやる」、「盲導犬に話す」という誤った行動をとる学生は、全面的受入群に3名いた。使用者に道を教えるとき、「使用者の体を押す/引く」、「盲導犬の胴についているハンドルのハーネスを引く」、「声や手招きで盲導犬を誘導する」という誤った行動をとる学生は、全面的受入群にも条件付受入群にも見られた。

<考察>

盲導犬使用者の病院利用自体を拒否する学生はいなかったが、使用者との同伴が認められている盲導犬を病院内に受け入れることには、盲導犬の立ち入り場所に条件を設けたいと考える学生がいた。全般に盲導犬のイメージも良く、病院内への盲導犬受け入れ拒否は、使用者そのものへの差別や盲導犬に対しての個人的な悪いイメージからくるのではないと推察される。また、全面的受入群であっても盲導犬や使用者への対応に必ずしも正しい知識を持っている訳ではなかった。盲導犬や視覚障害についての正しい知識を与え、盲導犬の受け入れに懸念を示す理由を分析し、それに対処していくことで、盲導犬とその使用者が社会に受け入れられる可能性は広がるであろう。

人間と動物の絆 動物は人間にどのような影響を与えるのか

上智大学

田崎 奈津子

(1) 序論

ここ数年、精神障害のある人や身体的な障害を持つ人、或いは、子どもや高齢者に対するセラピーの中で、ペット（伴侶動物）を用いることが増えてきている。このような療法、活動は動物介在療法、動物介在活動と呼ばれ、人間と動物の絆というものが、研究の対象になってきている。本研究では、Freidmann と Katcher (1983) による、熱帯魚を見ることが血圧に及ぼす影響に関する研究を踏まえ、それに若干の変更を加えた実験を行って、その結果から、動物が人間にどのような影響を与えるのかについて考察していくことを目的としている。

動物が人間に与える影響に関する実験は数多くあるが、それらの実験のほとんどが犬や馬といった動物を用いている。しかし、すべての人が犬を飼い、馬に乗る機会を持つことができ、それに伴う恩恵を受けられるというわけではない。これらはかなり大変な労力や費用が必要となるからだ。本研究ではそのような現状を考慮し、世話も比較的簡単で散歩などの必要もなく、しかも見るだけで影響を受けると考えられる熱帯魚を取り上げることとした。

本研究では、実験結果を踏まえ、動物が人間にどのような影響を持つものか考察し、その上で、動物介在療法、動物介在活動における本実験の意味を考え、これからの動物介在療法、動物介在活動がどのように進んでいくかを考えた。

(2) 方法

本実験は慶應義塾大学心理学研究室（B116）で行われた。この実験室は黒いアコーディオンカーテンによって2つに仕切られていた。入り口から向かって左側の部屋では、被験者の血圧を測った。まず、被験者の血圧のベースラインを取るために、1分間に1回の血圧測定を5回行った。次に、被験者の血圧の下がり方を見るために血圧をいったん上げる必要があり、被験者に階段の上り下りと歩行をしてもらったあと、被験者の血圧を測定した。被験者の血圧が上がっていることが確認されたら、被験者は、入り口から向かって右側の部屋へ移動した。この部屋は被験者が休憩するための部屋で、この部屋の奥の床から1mの高さの位置に水槽が置いてあった。この水槽の条件は2つあり、1つの条件では水槽の中に熱帯魚（ネオンテトラ18匹、ゴールデンハニーグラミー2匹）がいて（これを条件1とする）、もう一つの条件では、水槽の中に熱帯魚だけがいない（これを条件2とする）。それ以外の条件は、水槽の中も実験室の様子も変えていない。水槽の中には、底一面に砂利が敷いてあり、その上に水草と岩が置いてあった。この水槽から250cm離れたところで、被験者は椅子に座り、血圧測定器をつけたまま15分間休憩した。その間、5分後、10分後、15分後に血圧を測定した。

被験者は大学生で、血圧はほぼ正常値か、低血圧であった。

(3) 結果

図1を見た結果、休憩5分後の値と休憩10分後の値に、条件によって変化が見られることから、休憩5分後の血圧について、運動後の血圧と休憩5分後の血圧の差について、運動後の血圧と休憩10分後の血圧の差について、条件1、2の間に違いがあるかを調べるためにt検定を行った。また、条件2については、Base（5回の血圧測定の平均値）と休憩5分後、10分後の血圧に違いがあるのかについてt検定を行った。

検定の結果、有意水準5%で有意差があったのは、条件間についての運動後の血圧と休憩5分後の血圧の差において（ $t(19) = 2.148$ ）、また、条件2についてのBaseと休憩5分後の血圧において（ $t(8) = 6.70$ ）であった。これ以外については、有意水準10%でも有意差は見られなかった。

(4) 考察

本実験の結果で最も重要なことは、他の動物のように相互作用することのできない、単に見る対象でしかない熱帯魚という動物でも、人間に影響を与えることができるということが確認されたことである。その効果がどのような要因を持つのかはこの実験からは明らかにはならないが、見ているだけで、血圧に変化が生じることが確認されたのは大きな意味を持つと考えて良いだろう。

動物を見ているだけで、人間が良い影響を受けているということは、馬、犬、猫といった、相互作用を行うことのできる動物との接触は、それ以上に大きな影響を持つものだと考えられる。動物に触れてその温かさを感じたり、馬などの大きな動物に乗ったり、動物に話しかけたりするといった動物との相互作用によって、見るだけでは得られない影響が受けられるだろう。そのような影響が得られると考えているからこそ、動物介在療法・動物介在活動が成立するのである。どのような影響がそのような効果を持つものかについての研究はまだ始まったばかりであるが、これからますます興味深い研究が行われていくだろう。

本実験により、人間は動物を見ているだけで、動物を見ていない時より、身体的ストレスを早く解消できるということが明らかとなったので、更なる研究として、動物を見ることが心理的ストレスを与えた場合にどのような効果を持つのか検証し、動物とのより深い相互作用による効果の研究に役立てたいと考えている。また、このような人間と動物の絆による療法、癒しというものに多くの活躍の場が提供されるためにも、これからの研究、そして実際の活動が数多く行われることを期待している。

(5) 引用文献

Alan M. Beck / Aaron H. Katcher (1983) *New Perspectives on Our Lives with Companion Animals*. University of Pennsylvania Press.

図1) 条件1、2における全被験者の最高血圧の平均の推移

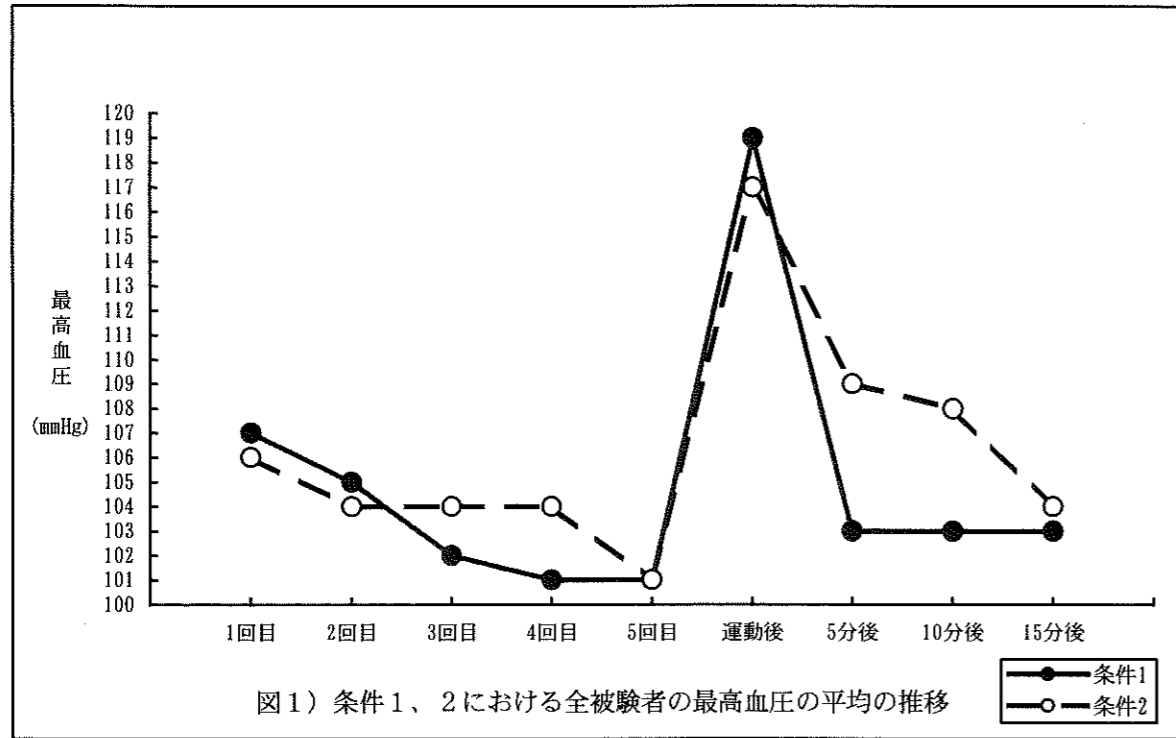


表1) 運動後と5分後の血圧の差 (単位:mmHg)

熱帯魚あり		熱帯魚なし	
被験者1	18	被験者15	11
被験者2	12	被験者16	3
被験者3	23	被験者17	10
被験者4	21	被験者18	10
被験者5	18	被験者19	3
被験者6	12	被験者20	17
被験者7	11	被験者21	2
被験者9	3	被験者22	7
被験者10	-7	被験者23	6
被験者11	26		
被験者12	21		
被験者13	26		
平均	15.33	平均	7.67
分散	96.06	分散	23.50
標準偏差	9.80	標準偏差	4.85

表2) t検定の結果

	変数 1	変数 2
平均 (mmHg)	15.3	7.7
分散	96.1	23.5
観測数	12	9
プールされた分散	65.5	
仮説平均との差異	0	
自由度	19	
t	2.15	
P (T<t) 片側	0.02	
t 境界値 片側	1.73	
P (T<t) 両側	0.04	
t 境界値 両側	2.09	

→有意差あり

表3) 条件2におけるBaseと5分後の血圧

単位:mmHg	5分後	Base
被験者15	105	100.6
被験者16	99	94.4
被験者17	122	116.2
被験者18	109	106
被験者19	106	95.8
被験者20	116	109
被験者21	103	98
被験者22	106	104
被験者23	117	110
平均	109.22	103.78
分散	56.44	52.54
標準偏差	7.51	7.25

表4) t検定の結果

	変数 1	変数 2
平均 (mmHg)	109.2	103.8
分散	56.4	52.5
観測数	9	9
ピアソン相関	0.95	
仮説平均との差異	0	
自由度	8	
t	6.71	
P (T<t) 片側	0.00	
t 境界値 片側	1.86	
P (T<t) 両側	0.00	
t 境界値 両側	2.31	

→有意差あり

保育現場での動物飼育実態調査

— 保育者の意見と子どもの認識 —

慶応義塾大学
杉本 倫代

【目的】

動物とふれあうことで得られる効果は大きい。そのため情操教育などの理由で動物を飼育する幼稚園や保育園は多い。そこで本研究において、保育現場での動物飼育の実態を調査する。保育者に動物飼育への期待と問題点についての質問紙調査と、子どもに動物の概念について面接調査を行った。

【方法】

1. 質問紙調査

- (1) 対象：山口県下松市、徳山市、光市の幼稚園・保育園46園
- (2) 手続き：各園を訪問して協力を依頼し、後日郵送にて回収した。
回収率は83.6%であった。
- (3) 質問項目：①飼育の有無とその理由（以前・現在・将来）、理由は複数回答法
②飼育有りの場合（以前・現在・将来）、動物の種類と頭数の記入
③動物飼育のよい点と困った点を自由記述
④幼稚園・保育園で動物を飼育することに関する意見の記入

2. 面接調査

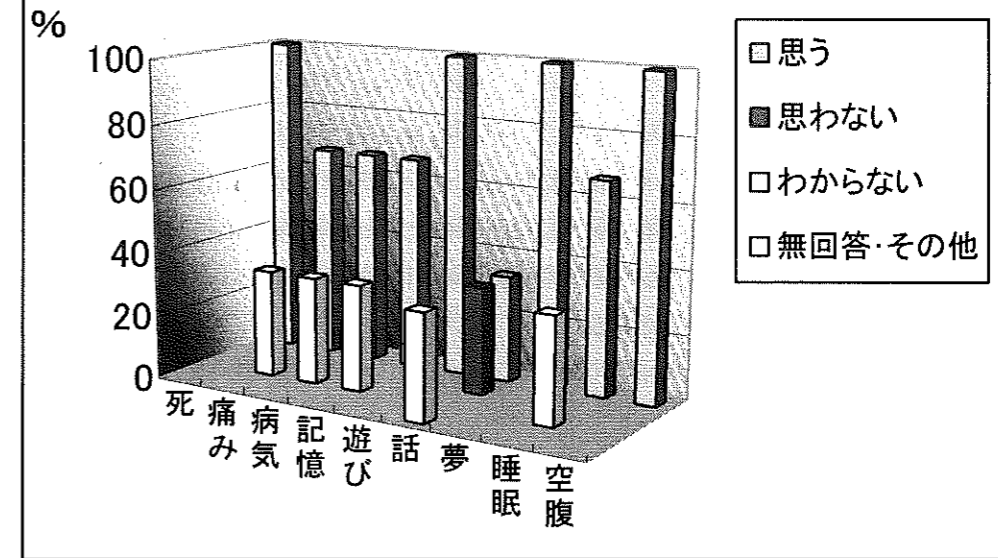
- (1) 被験者：動物飼育をしている幼稚園4園、保育園6園の年長児178人
(男児89人、女児89人)
- (2) 手続き：個別実験で行い、検査時間は一人につき5～10分であった。まず、これから園にいる動物のことについて教えてほしいことがあると説明する。名前（性）と年齢、兄弟の有無をたずね、質問をした。
- (3) 質問項目：①好き嫌い（対相手）②好き嫌い（対自分）③世話の有無
④空腹 ⑤睡眠 ⑥夢 ⑦話 ⑧遊び ⑨記憶 ⑩病気 ⑪痛み ⑫死

【結果・考察】

先生は子どもの心の癒しや発達への効果を期待していることが分かった。しかし、動物飼育には問題点もあるため、将来飼育が減る傾向にある。子どもについても、思いやりの心や責任感をもつこと、また分離不安には良い効果をもたらしているが、一部正しい生命概念をもてない子どもがいることは、今後検討しなければならない課題である。ただ全体的には、動物のもたらす安心感がよい人間関係を築くうえで重要な役割を果たしているといえる。

将来飼育が減る傾向にあることの原因は、地域の獣医師との連携がうまく取れていないことにあると考えられる。文部省も学校飼育動物は獣医師との連携が必要だとしている。ここが改善されれば飼育上の問題点のいくつかは解消されるものと思われる。

子どもの認識(魚類)



補完代替医療における動物看護師の役割

動物病院 NORIKO
動物看護師 関口 桂

近年、ヒトの医療領域において代替医療という分野が構築されつつある。代替医療とは、中国医学（鍼灸、指圧、中薬療法など）、インド医学等の伝承医療に加え、栄養療法、免疫療法、アロマセラピー、精神・心理療法等と広範囲にわたり、西洋医学とは趣の異なるものである。この中で当院が取り入れている栄養療法および免疫療法を用いた診療またはカウンセリングを行う上で、動物看護師が担う役割について発表する。

＜ 方法 ＞

1. 情報の収集

- ① 問診によるもの
 - ・外来患者の飼い主から 現症、経過、FOOD など
 - ・電話、FAX 等により問い合わせる飼い主から 現症、他院での治療の有無、経過、既往症、生活環境、FOOD など
- ② 検査データ
 - ・当院で実施：一般身体検査、血液検査（CBC、生化学検査）、尿検査、便検査、mf 検査、レントゲン検査、超音波検査、心電図検査、腫瘍の際の組織検査など
 - ・他院で実施したものは、そのデータのコピーを送ってもらう。
- ③ 飼い主の要望、経済的な問題に関するもの

2. 情報に基づき、獣医師と共に治療方針の中での、栄養素・FOOD 等を検討

- ① 栄養素、FOOD 等の選択
- ② 獣医師の指示による投薬の有無の決定
- ③ 他院で投薬中の患者への配慮

3. 飼い主との話し合いによる栄養療法または免疫療法の開始

- ① 栄養素、薬剤、FOOD の選択理由と与え方の説明、アドバイス
- ② 飼い主が指示通りできるか否かの判定 → 出来る範囲の確認と再指示

4. アフターケア

- ① 電話による様子伺い
 - ・栄養素が食べられたか否か

- ・摂取後の変化について …など
- ② 経過チェックのため、来院を勧める
(遠方の人には電話で相談を受ける)
- ③ 文書による問診の発送
飼い主の問い合わせへの返事など
- ④ 栄養素、薬剤等の再注文、再発送の問い合わせ

＜ ま と め ＞

まず飼い主に栄養療法または免疫療法を理解してもらうための啓蒙活動が必要である。代替医療（当院の場合は栄養療法および免疫療法）は、自然治癒力、免疫力を高める治療であり、これには時間と経費がかかるため、飼い主が続けられるよう、コミュニケーションをうまく取っていかねばならない。その重要な役割を動物看護師が担うことで、よりよい獣医療を動物たちに提供する事になるであろう。

重度脳障害を持つイヌの介護例

北川動物病院・東京都

児玉 由美子・山本 亜希・小中 裕子・岡本 五月樹・山村 穂積

日々いろいろの疾病に携わる中で、私たちは獣医師による指導を多く受けるが、今回重度の脳障害を持つイヌの介護を担当し、入院から自宅でのケアの指導まで、症状の変化や回復に応じた一連の看護をする機会を得たので報告する。

<症例>

ヨークシャーテリア 避妊済みメス 14歳 体重1.5kg

突然の食欲不振と軽度の腎不全を主訴に転院した。

これらの治療中に全身性の発作で入院。脳障害が疑われた。

<経過>

入院初日（第1日目）；エアーマットを敷いた入院舎内でケージレストをし、内科治療によって痙攣様発作は治まったが、意識ははっきりせず、横たわったまま遊泳運動が続いていた。

第2病日；遊泳運動は続いていたが、飲水出来ることを確認した。

第3から第5病日；遊泳運動は徐々に治まり、次第に呼びかけに目を動かしたり、顔を向けるようになった。この時点で左側横臥しかできないことが解り、さらに眼球をエアーマット上のタオルで傷を付けて角膜損傷が起きた。主治医より1日4～5回の点眼治療と抗痙攣薬などの投与の指示を受けた。食餌は流動食に糖を加えた物からペースト状の高カロリー食へ徐々に変えていった。

第6～9病日；右側の前、後肢を動かし、犬舎内の位置移動が出来るようになった。しかし依然として左の後肢は動かず、また右側横臥させても左に向けた頭を重心として回転し、左側横臥位になってしまった。体重が増加しないため、主治医より食事量を体重維持量より増加させるように指示を受けたが困難であった。

第10～17病日；鳴く、振り向くなどの意志表示が出来るようになった。また、常時左半身が下になるので、右半身を時々下にしてあげると、自ら動作の利く右半身の前肢や後肢を動かすことから、結果的にどうしても左下の横臥姿勢をとり続け、姿勢により起こるであろう褥創などを起こさせないようにするための管理が難しくなった。

食事に関しては、お皿からの自力採食させ、残りは注射器を用いて補助して与えることで、1日の必要カロリーを摂取することが出来るようになった。この間に内服薬の投与も同時に注射器を用いて強制投与したが、この管理だけでもかなりの時間と根気を必要とした。

入院中は家族で毎日面会に来ていたので、その都度飼い主さんの自宅での介護指導と食餌の与え方など今後の生活の注意点について私達からお話しする機会が多くあった。退院近くの2日間に渡り面会に来たときに飼い主に食餌と投薬の仕方を教え練習をしてもらった。その後、一時帰宅させ、翌日に再度出来なかった部分と確認の指導をした。これらの指導は毎日のように飼い主さんが面会に来て私たちの行っていることを

見ていたことなどを含め、退院後の自宅での食餌の与えかたや介護に関する指導期間は比較的短くて済んだ。退院後、現在MRIの検査待ちの状況である。

<考察>

退院後も「エアーマット」は終日使用しているが、エアーマットによる保護は発作による危険防止および褥創を防ぐために有効であった。ただし本症例のように一方向にしか横臥出来ない例については、長期的になるに従い無気肺などを起こすといわれ、この無気肺を防止するためにもさらなる工夫が必要であると考えられた。

給餌を行うに当たって投薬には3mlの加工した注射器、食餌には10ml注射器が効果的に利用できた。この際意識の低下している患者に対しては、誤嚥に細心の注意が必要であった。

長期に渡り介護が必要となる症例には、飼い主さんの介護に対する理解と協力が得られるような指導をすることが大事であることを痛感した。

フェレットの嗜好性試験結果

かしま動物病院
動物看護師 中俣 由紀子

今や犬、猫について第3のペットと呼ばれつつあるフェレットですが、人気だけ先走り肝心の栄養に関しては、あまり知られていないのが現状です。そこで今回、フェレットのドライフードに限定して嗜好試験を行ってみた結果報告をします。

<栄養>

フェレットは完全な肉食動物です。消化管が単純で短く食後3~4時間程で排泄してしまうのも特徴です。これだけの短時間に消化しやすい形で効率よく高タンパク、高脂肪を摂れる食餌が必要になります。ヒトと同様好ましくない食生活を長年続けていると問題がでてきます。

被毛が硬くなり、ゴワゴワしてきたり、体重が減ったり、病気に対する抵抗力が低下したりします。タンパク質は、消化しやすい動物性でさらに十分な量の動物性脂肪が栄養素の基本になります。

<方法>

フェレット10頭(1~4才)に数社の専用ドライフードを給餌しそれぞれの変化を60日間観察した。また、2日食べないものは除外し、ほかのフードに切り替え続けた。ケージ内の温度は20度前後と比較的生活しやすい環境で行った。

<結果、考察>

今回の試験においては、はっきりと身体に影響があらわれるものもあり、早いものでは2週間から1カ月程で被毛や体臭に変化がみられた。偏食をする動物のため長期にわたる試験は難しかった。多くのフードはアメリカ製のものであり、日本製のものはまだ良質と思われるものが少ないことに気づいた。

- ・熱量計算はNRCの栄養基準を採用しています。係数A、Bは右の式に応じた数値を記入します。
- ・優先項目はカロリーを基準に食品の組み合わせ比率を設定する場合に1を選びます。タンパク質基準の比率設定は2を選びます。
- ・比率は使用する食品の割合を百分率で記入します。使用しない食品については0(ゼロ)でも空欄でも結構です。

Print Sheetでは投与量計算表で処理された結果を一般向けに簡単に図示します。犬に必要な主な栄養成分について、その過不足量がレーダチャートで示されますが、数値はその左にある表のものです。その下に組み合わせた食品名と使用量が提示されます。獣医師名とコメントは手入力になります。プリントアウトする際はこのシートをアクティブにし、A4縦置きズーム80%程度で行ってみてください。

犬の栄養指導ソフトの作成について

明和学園短期大学
助教授 武藤 政美

はじめに

ヒトの健康管理は予防医学が重要であり、それには日常の食生活から見直すことが勧められています。ヒトのペットとして深く関わり合いを持つ犬もまた飼い主の食生活が反映され、ヒトと同じように肥満や生活習慣病に蝕まれ、食生活面での健康管理が必要となってきました。そこで、従来の動物病院での治療に加え、犬の食生活を改善するため、犬のための栄養指導を検討しました。

ヒトの栄養管理ソフトは様々市販されていますが、そのすべての機能を犬用に適用できるわけではありません。また、後々のバージョンアップや個々の使い勝手を考えると専用ソフトを開発したほうが良いと考えられます。かつて演者はBASIC言語を用いた栄養関係のプログラムを作成したことがありますが、個々に使用する場合、使用環境の条件に制約があり、汎用化できませんでした。しかし、近年幸いなことに表計算ソフトの発達により、かなり高度な応用ができるようになりました。また表計算ソフトEXCELは広くパソコンで使用されているソフトであることから、この機能を利用したソフトであれば汎用性が高いと考えられます。本ソフトはEXCELの表計算機能そのものを使用しており、プログラムというよりは書式を設定したひとつのファイルです。サイズは1.4Mバイトのフロッピーディスクに十分収まります。また個々の書き換えや変更もできますので自由度の高いソフトであると考えられます。

アプリケーションの概略と使用方法について

本アプリケーション(ファイル名DF v.3.8)はマイクロソフト社の表計算ソフト、エクセルを利用して、飼い犬の健康管理のための食餌メニューを設定する目的で作成されました。

このソフトは3つのシートからなり、栄養計算の元となる各食品成分の含有量をあらかじめ記入しておくData Sheet、データを入力し計算処理する投与量計算表、レシピを印刷するためのPrint Sheetがあります。

まず、Data Sheetでは左側に記載されている項目にしたがって食品名と栄養成分の数値を上から順次記入します。すでにいくつかの食品データは記入してありますが、これ以外に必要なデータは食品成分表などを参考に、追加記入して下さい。このシートは本アプリケーションにどうしても必要なものではなく、あらかじめ食品データをストックしておくものだと考えて下さい。実際に計算処理されるデータは次に説明する投与量計算表の右の方にあるサンプリングテーブルに記入されているデータです。ここにペーストするためのデータであると考えて下さい。サンプリングテーブルに直接データを入力してもかまいません。

投与量計算表では黄色のセルがデータ入力できる場所になります。

- ・年月日、飼い主、ペット名は自由な書式で記入して下さい。
- ・年齢、現体重は数値を入力します。
- ・BCSは犬の外観より肥満度を5段階で評価し、1=やせすぎ、2=やせぎみ、3=標準、4=ふとりぎみ、5=ふとりすぎの数字を記入します。これに基づいて理想体重の範囲が表示されます。
- ・犬の体重はあえて現体重と別個に設定するようにしてあります。

取材現場で見た 魅力的な動物看護師

～経験が自身につながる仕事～

作家 井上 こみち

動物のかかわるノンフィクションを書き始めて20年。動物看護師の存在に気づいたのは、10年ほど前で。それまでは、この分野の専門職があることを知りませんでした。窓口を手伝っている女性、病院がたてこんでいる時にだけでてる院長夫人、という感覚でした。

獣医さんの取材である病院にいった時、飼い主にていねいに説明している女性のやさしさ、しなやかさに思わず注目し、耳をそばだててしまいました。AHT、VTとの出会いでした。

子どものころからネコを飼っているの、飼い主のひとりとしても、看護師の存在に注目したわけです。具合の悪いのに気づいて病院に連れてくもの、病状や治療についてもっと聞きたいと思っても、ひとりできりきり舞いなさっている獣医さんをつかまえて、しつこくたずねることができずにいた経験があります。きちっと説明を聞いてできる看病をしていたら、あのネコは助かったかもしれないという後悔があったからです。

気がつく、看護師の仕事について質問してしまいました。いろんな話なかで、今も印象に残っているのは、飼い主の信頼感がないのがつらい、自信をなくしがちだというものでした。看護師という仕事がまだ世間の認知の低い時期だったのです。病状や治療について説明しても、後で先生にもう一度聞きなおしていたり、「直接、先生に聞きたい」といわれるということでした。

これは作品のいい素材になると思いました。同時に多くの人に知ってほしい存在の仕事だと、さっそくある動物病院の協力を得て、看護師さんの座談会、アンケート形式でやりがいを感じた時や自信をなくした時のことなどを書いてもらったりと、取材を始めました。これらは児童書のノンフィクションとして、動物病院物語になりました。その病院のスタッフに愛されている二頭の犬のエピソードを織りまぜながら、獣医師を支え、飼い主からも頼られている看護師の活躍を描きました。

この本だけでは語りきれないと思っていたところ、看護師の仕事を紹介するハウトゥ本を書く仕事（訓練士の本、飼育係の本と合わせて3冊同時）がきたので、二つ返事で引き受けたのが、〈なるにはBOOKS〉のシリーズです。

ここでまた、動物看護の現場の取材をすることになり、ますますその仕事の必要性を感じました。動物看護を専門に勉強した人の活躍の場は動物病院だけでなく、動物園、水族館やペットショップなど広がっていることもわかりました。社会的にも注目され認知されている仕事ながら、公的な資格制度がないというのは残念です。さらにやりがいをもって仕事ができるような制度が必要だと痛感しています。

「動物看護師の力なくして、トータルな動物診療はできない」という獣医師の言葉どおり、この仕事を選んだからには、「誇りと自身をもって！」と、エールを贈りたいと思います。

取材現場で見た、看護師さんのエピソードをいくつかご紹介したいと思います。

◆週に一度通院の犬、看護師のアドバイスと励ましで、飼い主は勇気づけられ、犬は救われた

◆安楽死直前、看護師の愛情と観察眼で助かったネコ

◆交通事故ネコを冷静な処置で助けた二人の看護師など。

飼い主のひとりとして看護師に望むことなどにも触れたいと思います。

動物看護師が直面する心理的問題

東京都立保健科学大学

教授 長田 久雄

演者はこれまで何度か、動物看護師を対象として、飼い主への対応について話題提供する機会を与えられた。その経験から、動物看護師や獣医師には、飼い主との関係から生じる種々の心理的問題を抱えている人が少なくないという印象を受けた。

本シンポジウムでは、はじめに演者が簡単な問題提起をし、後にフロアを含めて、実際に動物看護師が飼い主との間で、どのような問題に直面しているかについて意見を交換したい。

動物と人との関係の歴史は長い、今日のように、動物介在療法やペット・ロスが注目されるようになってきたのは、最近のことである。そして、少なくともわが国においては、これらに関して、いまだ十分に実証的な研究が行われているとはいえない。

たとえば、老人ホームなどで、利用者と犬や猫とが触れ合う機会を提供するといった活動は、少しずつ浸透してきているようである。

しかし、実際にどのような効果があるのか、あるとすればどのような条件が整備される必要があるのか、ということに関する実証的な研究成果は、現在のところ十分報告されているとはいえない。また、いわゆるペット・ロスといわれる事例の実態なども、いまだ不明な点が少ない。

動物介在療法は、人に対する効果を目的としたものであり、ペット・ロスは人の起こす心理的反応である。従って、これらの研究や実践、対処に際しては、心理学や医学からの接近も不可欠であろう。今後こうした問題に関して、動物看護師や獣医師と他領域の専門職とが連携する可能性を探索するためにも、問題点を明確にし整理しておく必要があるのではなかろうか。

こうしたことを前提として、演者は本シンポジウムで、以下の課題について活発な意見交換がされることを期待している。

1. 動物看護師として飼い主に対応する際、動物の治療や看護に関すること以外で困った事例はどのようなことか。
2. いわゆるペット・ロスと思われる飼い主への対応の経験や、その中で困ったことはどのようなことか。
3. 動物看護師や獣医師、動物病院への通院に対して、動物の治療や予防以外のことを求めているように思われる飼い主があれば、それはどのような事例か。
4. 動物看護師が飼い主に対して動物の躰や飼育に関する助言を行う際、困難なことがあるとすればどのようなことか。
5. 動物を飼ったり、動物と触れ合うことによって効果があったと思われる事例があれば、それはどのようなものか。

第6回 総会資料

【99年度事業報告】

【99年度（第5期）決算】

【2000年度事業計画】

【2000年度（第5期）予算案】

【99年度事業報告（99年4月1日～2000年3月31日）】

4月11日 事務局移転協議

4月 ニュース・レター5号発行

5月27日 理事会において㈱アグレに事務局委託を決議

6月6日 第8回大会 於/慶応義塾大学・三田キャンパス 大学院棟

◎一般演題

「動物看護師実態調査報告」秋葉亮子（あいち動物病院）

「擬人化を中心としたヒトのイヌに対する発話分析」甲田菜穂子（大阪大学）

「動物における選好の測り方」後藤和宏（慶応義塾大学）

「当院での院内感染予防」青木香代子（青木動物病院）

「糖尿病のイヌを通して、看護の関わりを考える」赤池久恵（赤池ペットクリニック）

◎セミナー

「動物看護学概論」栗野 悟（本会理事）

「動物看護師のための放射線学」織間博光（日本獣医畜産大学）

7月 ニュース・レター6号発行

10月30日 会誌「アニマル・ナーシング第3号、第4号合併号」発行

11月20日・21日 第20回動物臨床医学会・第6回例会（共催）

◎20日（土）一般演題6題 ◎21日（日）動物スタッフセミナー

2000年1月 ニュース・レター第7号発行

2000年2月26日・27日 第7回例会

◎26日（土）セミナー

「ペットフードのラベルが読めますか？」坂根弘（日本ヒルズ・コルゲート）

「動物看護学概論—動物看護研究—」栗野 悟（本会理事）

「動物看護師とヒューマン・ケア」長田久雄（東京都立保健科学大学）

◎27日（日）一般演題8題

VTセミナー「微生物学の基礎」遠矢幸伸（鹿児島大学）

2000年3月20日 教育セミナー「猫の行動学」内田佳子（酪農学園大学）

99年度(第5期)決算

(平成11年4月1日～平成12年3月31日)

	科 目	収 入	支 出
収入の部	前年度繰越金	¥887,628	
	年会費	¥897,000	
	広告料	¥226,000	
	賛助会費	¥210,000	
	大会参加費	¥251,000	
	大会協賛金	¥20,000	
	雑誌別刷代	¥21,000	
	利息	¥41	
支出の部	印刷費		¥538,073
	通信費		¥459,202
	会議費		¥80,160
	消耗品費		¥127,118
	図書費		¥16,899
	交通費		¥15,660
	慶弔費		¥10,500
	事務費		¥200,000
	大会・例会費		¥301,749
	次年度繰越金		¥763,308
合 計		¥2,512,669	¥2,512,669

会計監査印



【2000年度事業計画】

1. 大会・例会

- ・2000年6月11日(日)第9回大会、第6回総会 於・慶応義塾大学
- ・2000年11月18(土)、19日(日)第8回例会 於・大阪、アジア太平洋トレードセンター
動物臨床医学会年次大会と共催
- ・2001年2月17日(土)、18(日)第9回例会 於・池袋サンシャインシティ文化会館
日本獣医臨床病理学会と共催

2. 会誌 第5号、第6号の発行

3. 「動物看護学総論」(教科書)の原稿執筆・発行

4. 動物看護師資格問題の具体的検討

5. 例会、教育セミナー等は、会員の要望により随時開催いたします。

6. その他のこと

2000年度（第6期）予算案

（平成12年4月1日～平成13年3月31日）

	科 目	収 入	収 出
収入の部	前年度繰越金	¥763,308	
	年会費	¥900,000	
	広告料	¥200,000	
	大会参加費	¥600,000	
	協賛金	¥150,000	
支出の部	印刷費		¥1,100,000
	通信費		¥500,000
	会議費		¥150,000
	消耗品費		¥100,000
	図書費		¥50,000
	交通費		¥90,000
	慶弔費		¥20,000
	事務費		¥200,000
	大会・例会費		¥400,000
	雑費		¥3,308
合 計		¥2,613,308	¥2,613,308